



あの人の
ロハスなストーリーを
聞いてみたい！

第5回(1) 杉谷和俊さん (北星鉛筆株式会社 代表取締役社長)

ロハス・クリップスでも人気を集めている商品の1つに、おがくず粘土の「もくねんさん」があります。開発者の北星鉛筆株式会社(東京・葛飾区)の杉谷和俊社長は、時代を読み、鉛筆を軸に、今あるものを生かした新しい製品を生み出すアイデアマン。便利なものに囲まれた人口減少時代にあっても、鉛筆のファンを増やし、世代を超えて多くの人に夢と希望を配っています。



杉谷和俊社長。
もくねんさんで描いた立体的な
ひまわりの絵の前で

にかしたくて生み出された製品です。最初はお風呂屋さんの燃料になっていました。でもお風呂屋さんも廃業が相次いだので工場内で焼却していたのですが、時代と共に市街地での焼却も難しくなりました。そこで、おがくずを粉砕する再加工技術を考え出し「もくねんさん」が誕生しました。この粘土は、手にくっつかず、乾くと木になります。この粘土は紙粘土のように乾いてもひびが入ることもなく、造形、彫刻、絵画などどんな作品もできます。

私が以前父に、子どもの頃はテレビがなかったと言ったら、我々は電気がなかったと(笑)。時代がどんどん変わっていく中でどういう風に生きて行くか、どうやって価値を作っていくかをどの人も考えるんですね。家訓では、「鉛筆のある限り鉛筆をやれ」と言っているわけですから、どうやって時代の中で生きて行くかと。私は鉛筆ファンを作るために「ペンシルラボ」を作り、鉛筆の歴史を伝えながら、「もくねんさん」の体験スペースや「もくねんさん美術館」を作り、鉛筆の素晴らしさや楽しさ、そして長い間、産業廃棄物でしかなかったおがくず粘土の可能性を広く伝えることにしました。



「東京ペンシルラボ」には、鉛筆の製造工程や歴史がよくわかる展示品がびっしり

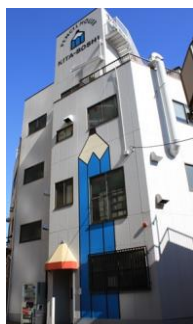
鉛筆のある限り家業として続けよ

私は四代目。初代の安左衛門が残した家訓は、「鉛筆は我が身を削って人のためになり、真ん中に芯の通った人間形成に役立つ立派な職業だから、利益にとらわれないで、鉛筆のある限り、家業として続けるように」です。すでに創業の1951(昭和26)年から60年以上が経ちました。鉛筆の「身を削る」というのは、削らなければ文字が書けないという欠点でもあり、削らないで書ける鉛筆は、鉛筆製造に携わる人にとっては「夢」でした。1954(昭和29)年に作られた「ノーカットペンシル」は、芯の出し具合を調節して書けるようにした鉛筆ですが、当時の技術では筆圧で芯が引っ込んだりするのでもうまいきませんでした。後にその「夢」を形にして普及したものの一つにシャープペンシルがありますが、これは芯を堅くするためにプラスチックが入っています。書き味は紙の表面を滑る感じですね。便利ですがこの書き味が好きじゃない人も意外と多いように感じます。

一方、鉛筆は絶対裏切りません。鉛筆は必ず書けます。多くの人が鉛筆にはいい思い出を持っています。鉛筆以外の筆記用具は買う時に多くの人が書けるかどうか試してみます。書き心地も。でも、鉛筆はどれを買っても大丈夫だと思っている。そういう鉛筆の優れた部分と、当時の「ノーカットペンシル」が抱いた夢を現代につなぎ、「大人の鉛筆」が生まれ、世に送り出すことができました。※「大人の鉛筆」は2011(平成23)年の日本文具大賞受賞

工場の隣に設けた鉛筆の博物館・学習施設 「東京ペンシルラボ」

当社では一日10万本の鉛筆を生産しています。おがくず粘土は、鉛筆製造工程で生まれる木材の4割分のおがくずをどう



遠くからでも鉛筆が見える

アリの目線、鳥の目線でモノを見る

従業員にも、物事の見方については大切だとよく言っています。「人間は考えたことしか実現できない」と。ではどうやったら実現に向けて考えられるのか。それが「アリの目線と鳥の目線」です。アリの目線は細かいところは見えるけれども全体像が見えない、鳥の目線だと全体のデザインがわかる。絶えず一つのもをアリの目線と鳥の目線で行ったり来たりする。その繰り返しによって今の時代に合った実現可能なものが見えてくると思っています。今私は空気のあるところ＝鳥の目線が最も大きな

枠組みになっていますが、そのうちに本格的な宇宙の時代がやってくると、地球の外から見たらという価値観が加わってくる可能性があります。そうなるともた大きく時代が変貌するんじゃないでしょうか。つまり、物事を見る場所によって答えが変わってくるということです。いろんな角度から見るのが大事なのです。

ユーモアにあふれる杉谷社長は、人やモノを心底大切に思う心が加わって時々アンパンマンにも見えてきます。さらに深い話が続きます。(店長・林美栄子)

【ダブルチャリティ・寄付について】 ~ソレココ 私たちにできる小さな一歩~

Lohas-Clipsでお買い物をしていただくと、購入金額の3%がLohas-Clipsのファンドとして積み立てられます。その資金は、困難な状況にある子どもたちを支援する活動や、子どもたち自身が企画する平和や社会貢献活動をサポートしていくことになります。Lohas-Clipsが扱うソレココ商品は、作っている人も使う人も、みんなが笑顔になるストーリーが詰まっているものばかり。小さな買い物で、作った人たちの生活が変わる。小さなことだけれど、地球の生命や環境保全につながる。そして購入金額の3%が寄付になる。ソレココは誰もが参加できるみんなの未来をよくする一歩です。「ソレならココで買おう!」と思っていただけなら幸いです。



自然と生きるニュージーランド人

ワットめぐみ

ニュージーランド (NZ) は建国して、まだ 200 年ほどの若い国です。これはいわゆる、ヨーロッパ移民が NZ に入り、土地を整備・開発してきたことも同時に意味します。

海や山、川や湖、そして森が一面に広がる手付かずの自然が、今でも残る NZ ですが、人が入ることで、人間が住みやすいように変化したことも事実です。

90 歳になる夫の祖母は、小さい頃はボニーに乗って小学校に通ったと教えてくれました。またもうひとりの祖母も、結婚当初は家の中に台所がなく、いつも外(庭)で料理をしていたと言っていました。現在はもちろんそのようなことはありませんが、少し前までは、そのような生活が営まれていたのです。

NZ の良い点として、このような、多少不便でも自然に密着した生活や生き方を尊び、便利さを追求するだけの開発をしないことが挙げられます。

以前ニュースで見て、びっくりしたことがあります。NZ 南島は観光が大変盛んで、毎年多くの旅行者がやってきます。そのため、観光地 A と B をつなぐバイパスを通そうという計画があがりました。これが通れば移動時間がかなり短縮されることになり、集客につながります。しかし一方で、バイパスのために相当量の木を切り倒し、野生動物の棲家を奪うこととなります。そのニュースでの、地元の方のインタビューでは、開発して自然を壊してまで、観光客に来てほしくないと言っていたのが大変印象深かったことを覚えています。

先日初めて訪れ幼稚園で、こんな光景を目にしました。その幼稚園の園庭には小川が流れており、園児たちが楽しく遊んでいました。興味深く眺めていると、先生が一人やってきて、この小川は手作りで、更に水は循環式なので無駄にしていないと教えてくれました。



次に園舎に入ると、とても大きく美しい子ども用テーブルとイスがあったので聞くと、これは自分たちで木を購入して、ちょうど良い大きさに切り、ヤスリをかけるなどして、全て手作りで揃えたものだと教えてくれました。重厚で使いやすいテーブルセットが、とても安くできたとおっしゃる先生は、とても満足そうでした。

NZ には様々な種類のお店があり、またネットで買えるものも大変多く、日本のような暮らしができます。ですが NZ 人は、すぐには買わず一呼吸おいて、自分でできることは自分で行う、そしてなるべく自然を破壊しないようにする、という DNA が受け継がれているような気がします。

川崎市出身。NZ とは留学やワーホリ、結婚などで 20 年ほどのお付き合いです。NZ 人の夫、6 歳長男、4 歳長女、1 歳次男の 5 人家族。気の合う義母に恵まれて、NZ ライフを満喫中！ 自宅でワーキングホリデー・ホームステイ & サポート <http://www.workingholidayexpress.com/> ホームステイ留学 <http://nzryugaku.jp/> しています！



Pick up!

未来のためにできること！

鉛筆製造工程で出てくる大量のおがくずをリサイクル おがくず粘土「もくねんさん」

木の香りが心地いい〜♪ 何でも作れる

産業廃棄物だったおがくずを粘土にしました。それが「もくねん(木製粘土)さん」。生分解樹脂を使っていますので、土に埋めれば微生物の力で土に還ることができる循環系商品です。

◆もくねんさん(300g) 324円(税込)



人や環境にやさしいおがくず粘土です。自然乾燥させるだけで、素焼き風の軽くて丈夫な木になる不思議な粘土。後で色も塗れますし、先に絵の具を混ぜても

いい。人形も、絵も、小物でも、何でも作れます。手にべとつかず、使っている間は木のいい香り。こんな風に指人形も！



◆もくねんさん手づくりえんぴつキット (もくねんさん 200g、芯 5 本、のし棒等他) 324円(税込)



「もくねんさん」で、自分だけの、世界で一つのオリジナル鉛筆が作れちゃう！ 入園・入学などのプレゼントとして、贈り物にもぴったりです。鉛筆 5 本分の材料が入っています。

◆ウッドペイント 7 色セット (白・赤・黄・青・緑・茶・黒、各色 30g 入り、パレット・筆付) 950円(税込)

色を塗るのはもちろん、油絵のように分厚く塗り重ねれば、乾くと木のような質感の絵に仕上がります。水性で簡単に好みの色が作れます。もくねんさんに混ぜれば色粘土の出来上がり。乾いた後に、彫刻刀や紙やすりなどで加工することもできます。もくねんさんとセットでお使いください。

夏休みの自由研究にもおすすめ！ 北星鉛筆の【東京ペンシルラボ】

「東京ペンシルラボ」は、みんなが使っている鉛筆のヒミツがたくさんつまった研究所。ここには、見て・ふれて・つくって、鉛筆を新発見できる楽しみがたくさんあります。鉛筆工場は、まさにワンダーランド！ 工場を見学して、もくねんさんを体験して、ついでにスカイツリーを見物して帰るといったのもいいですよ。

- 開館日：月～金(土・日・祝は休み)
- 見学時間：10:00～17:00 (ガイドツアーは 10:00～、13:00～、15:00～)
- 見学料金：東京ペンシルラボの入場は無料、工場ガイドツアーは大人 400 円、小人 300 円 * 団体割引あり、もくねんさん体験は作品によって 500 円、300 円 * 約 20-30 分
- お申込み：03-3693-0777
- 交通：京成電鉄四つ木駅より徒歩 10 分

編集後記

先日、山中湖一周マラソンに参加してきました。早速、紫外線対策として、新商品の「ママバターUVクリーム」を使用しましたよ(^^)しっとりさらさらの使い心地が◎大好きな富士山を眺めながらのマラソンは、格別でした！やはり、富士山のパワーって凄いですね～。その富士山を身近に感じながら生活をしている地元の方たちの温かさ。有り難かったです♪ (スタッフ・田中)

【ロハス・フレンド会員募集中！】

ロハス・クリップスでは、お買い物 がしやすく、様々な特典が受けられる「ロハス・フレンド会員」を募集しています。登録は無料。Web サイトからどうぞ。

【発行】 合同会社チルドレンズ・プレッジ

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 7-17-1-303 tel:03-6796-2713 <http://www.lohas-clips.com>

「ロハス・Lohas」とは、Lifestyle of Health and Sustainability の頭文字をとった略語で、環境や周囲に配慮し調和しながら、健康的で、無理なく持続できる社会生活を心がける生活スタイルのこと。Lohas-Clips では、さらに、「人や生物とのつながりに感謝し、地域の一員として、社会人として、そして地球に生きる人として、みんなでわちか合いシンプルかつ心豊かに暮らせること」をイメージしています。